

盗めり、人を養ふも亦復乏かり、

〔燕石雜誌五上〕俗呪方

治病猫禽獸の病はみな疫也、鳥獸魚類の病死したるものは食ふべからず、猫の疫は必吐す、はやぐ銅杓子を削て、魚肉に交て餌ば即活、亦鳥藥水を以灌之甚良と、時珍はいへり、凡猫は鐵を忌もの也、魚骨を飯に和て餌とて常に鐵火箸をもてすれば、その猫疫て命短し、

猫事蹟

〔夫木和歌抄二十七〕御集

花山院御製

しきしまのやまとはあらぬからぬこのきみがためにぞもとめ出たる

此御歌は、三條の太皇太后宮より、ねこやあるとありしかば、人のもとなりしが、おかしげなりしを、とりてたてまつりしに、あふぎのおれをふだにつくりて、くびにつなぎてあそばされし御歌と云々、

〔小右記〕長徳五年○長保元年九月十九日戊戌、日者内裏御猫産子、女院左大臣右大臣有産養事、有衝重

皖飯、納宮之口口云々、猫乳母馬命婦、時人咲之云々、奇恠之事、天下以目、若是可有徵歟、未聞禽獸用人乳、嗟乎、

〔枕草子〕うへにさぶらふ御猫は、かうふり給はりて、命婦のおもととていとおかしければ、かしづかせ給ふが、はしに出たるを、めのと馬の命ぶ、あなまसानや、いり給へとよぶに、きかで日のさしあたりたるにうちねぶりてゐたるを、おどすとて、翁○犬まる○犬いづら、命婦のおもとくへといふに、まことかとて、玄れものはしりか、りたれば、をびえまどひてみすのうちにいりぬ、あさがれいのまにうへ○條一はおはします、御らんじていみじうをどろかせ給ふ、猫は御ふところにいれさせ給ひて、おのこともめせば、藏人たゝたかまいりたるに、此翁○犬まるうちてうじて、いぬ島につかはせ、たゞいまと仰せらるれば、あつまりてかりさはぐ、馬の命婦もさいなみて、めのとかが